

【小施策評価(令和6年度実績評価及び平成27年度～令和6年度総括)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	歴史文化課
施策	11	歴史・文化の継承	評価 責任者	遠藤 征司 内線 7350
小施策	11-1	文化財の保護と活用	評価 シート 作成者	三浦 陽一 内線 7351

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
<ul style="list-style-type: none"> ・市内に所在する有形文化財や天然記念物などは、後世に引き継いでいくため、収集、記録保存及び周辺環境を含めた維持管理に努める必要がある。また、地域に受け継がれている有形民俗などの文化財については、市民の歴史学習や地域学習のほか、世代間交流やまちの活性化のため幅広い活用を図る必要がある。 ・無形民俗文化財は、伝承基盤が確立している保存団体がある一方で、深刻な後継者不足に直面している団体もあり、保存団体の特性に応じた対策が求められている。 ・遺跡などの埋蔵文化財については、各種の開発事業との調整を図るとともに、出土した埋蔵文化財の適切な管理や保存、調査を進め、その成果の公開に努める必要がある。 ・志波城跡や盛岡城跡などの史跡については、基礎調査や整備・活用を計画的に進める必要がある。 	文化財指定の有無にかかわらず、有形文化財や無形文化財、民俗文化財、記念物、埋蔵文化財などの保護を適切に進めるとともに、市民がより歴史や文化に興味を持てるように、文化財の幅広い活用を図る。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民 文化財	地域の貴重な文化財を知るとともに、次世代に伝えるようになる。 適切に保存される。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和6年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
				成果点	成果の要因分析
指標① 文化財数(国、県、市指定)				単 位 件	目指す方向 ↗
当初値 (H25)	270	R1目標値	276	R6目標値	281
盛岡市自然環境及び歴史的環境保全条例及び景観法に基づく、景観重要建造物等(景観重要建造物21件・保存建造物1件・計22件)				単 位 件	目指す方向 →
当初値 (H25)	22	R1目標値	22	R6目標値	22
<p>・指定文化財数は変化がなかったが、市指定文化財のうち1件が県指定文化財となったほか、市指定文化財の候補物件を諮問することができた。</p> <p>・指定となっている有形・無形の文化財等を存続できた。</p>				<p>・補助金による支援等で、管理者による有形文化財の維持管理や民俗芸能保持団体の活動が促進され、文化財の保護が図られた。</p> <p>・有形のもの 管理費補助(37者 延べ62件)</p> <p>・無形のもの 活動支援補助対象 盛岡市無形民俗文化財保存連絡協議会(構成活動団体数41団体)</p>	
<p>・有形の文化財等は、周辺の環境も含め、適切な保存・修繕が難しくなっているものもある。</p> <p>・無形民俗文化財は、深刻な後継者不足に直面している団体もあり、民俗芸能保持団体の特性に応じた対策が必要となっている。</p> <p>・埋蔵文化財の発掘調査による出土資料の収蔵スペースが不足しており、適切な保管環境が整えられた収蔵スペースの確保が必要となっている。</p>				<p>・有形文化財等の保存・修繕にかかる資金(財源)の確保について、所有者における負担が少なくないこと等、管理体制の維持が難しい状況となっている。</p> <p>・無形民俗文化財は、人口減少、少子高齢化の進行が顕著な地域ほど、民俗芸能保持団体の後継者の確保が難しい状況になっている。</p> <p>・埋蔵文化財の発掘調査は毎年実施されていることから、出土資料は増え続けており、既存の施設には収まり切れず、増築による収蔵スペースの確保も難しいため、仮設の施設にも仮置きしている状況である。</p>	
<p>・景観重要建造物等を観覧する機会を設けることができた。</p> <p>・景観重要建造物等の維持保全を図り、前年に引き続き存続できた。</p>				<p>・市所有の景観重要建造物等の公開を行った。</p> <p>・民間所有の景観重要建造物の改修支援制度を継続するとともに、市所有の景観重要建造物について必要に応じて優先順位を柔軟に変更して修繕を実施したことが、健全な維持保全につながった。</p>	
<p>・景観重要建造物等の老朽化が進んでいるため、計画的な改修が必要となっているが、対応が難しい状況である。</p>				<p>・改修費用を確保することが、困難となっているため。</p>	

平成27年度～令和6年度の実績値の推移

要因分析
<p>・文化財の指定追加については、候補となる案件の情報収集に努め、文化財保護審議会へ諮問を行うための調査等を行い、審議会の答申に基づき進めてきたところであり、県の指定や市の指定など、着実に件数を増やすことができた。</p> <p>・一方で指定のための調査・審議には慎重な検証が必要であり、1件あたりに相応の時間を要するが、新型コロナウイルス感染症の影響等により、調査を控えざるを得ない時期等もあり、新規の案件について積極的に指定候補物件の選定や調査を実施できなかったため、持続的に指定を続けることができず、目標までには至らなかったものである。</p> <p>・また、既指定の文化財については、有形文化財等の維持管理費や、無形民俗文化財の継承活動に対する補助金交付を行ったことや、郷土芸能フェスティバルの共催などの支援を行ったことで、保存維持の一助となり、成果が出ているものと捉えている。</p> <p>・ただし、文化財自体の老朽化や無形民俗文化財の後継者不足などの、保全や継承にかかる将来的な課題について、引き続き検討を進めていく必要がある。</p>
<p>・民間所有の景観重要建造物の改修支援制度を継続するとともに、市所有の景観重要建造物の修繕について必要に応じて優先順位を柔軟に変更して実施したことが健全な維持管理保全につながった。</p>

【小施策評価(令和6年度実績評価及び平成27年度～令和6年度総括)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	歴史文化課
施策	11	歴史・文化の継承	評価 責任者	遠藤 征司 内線 7350
小施策	11-2	博物館等施設の整備・充実	評価 シート 作成者	三浦 陽一 内線 7351

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
博物館等施設は、その適切な管理運営と計画的な保全、整備に努める必要がある。	各施設の老朽化対策を進め、必要な施設整備を行う。また、各施設では、その施設の特色を生かした事業を展開し、市民へ学習機会を提供し、歴史や文化に対する理解が深まるような運営を行う。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民等 博物館施設	地域の歴史や文化を知る。 魅力的で快適な施設環境になる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和6年度実績)

実績値の推移					実績の評価																									
					成果点	成果の要因分析																								
指標① 博物館施設入館者数	単 位	目指す方向																												
	人	↗																												
当初値 (H25)	360,816	R1目標値	361,937	R6目標値	363,437																									
<table border="1"> <caption>博物館施設入館者数推移表</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>入館者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当初値 (H25)</td> <td>360,816</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>407,707</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>416,327</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>391,456</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>397,000</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>372,542</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>140,698</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>152,025</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>267,035</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>370,300</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>383,894</td> </tr> </tbody> </table>							年度	入館者数	当初値 (H25)	360,816	H27	407,707	H28	416,327	H29	391,456	H30	397,000	R1	372,542	R2	140,698	R3	152,025	R4	267,035	R5	370,300	R6	383,894
年度	入館者数																													
当初値 (H25)	360,816																													
H27	407,707																													
H28	416,327																													
H29	391,456																													
H30	397,000																													
R1	372,542																													
R2	140,698																													
R3	152,025																													
R4	267,035																													
R5	370,300																													
R6	383,894																													
					問 題 点	問題の要因分析																								
					<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度の博物館施設入館者数は大規模改修工事に伴う休館期間中の施設を除く7施設のうち、4施設の入館者数は前年度を上回り、全体で104%の増加となった。 石川啄木記念館・盛岡市玉山歴史民俗資料館の複合施設が完成したほか、原敬記念館や先人記念館、遺跡の学び館では空調設備等の改修が行われ、志波城古代公園では、安全性に課題のあった外郭南辺の櫓について、解体撤去を実施するなど、利用者の利便性等を改善することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ニューヨーク・タイムズ紙(電子版)の記事やその後のインバウンドの効果等が継続し、外国人を含め、内外の観光客が増加したほか、各施設でSNS・HP等を活用したPR活動に取り組んだため。 一部の博物館等施設の整備・修繕等については、長寿命化等に係る財源を活用することができ、利用者に対する利便を維持・向上させることができた。 																								
					<ul style="list-style-type: none"> 利用者から博物館施設におけるキャッシュレス決済やwi-fi設備の導入、展示資料や内容の更新について要望が寄せられている。 一部施設では施設、設備の老朽化や支障木の未措置など、修繕等対応が追いつかず、来館者の受け入れ環境が改善できない。 博物館法改正に対応する、資料のデジタル化が進んでいない。 発掘や寄贈などにより資料が増加し続けており、適切な保管スペースの確保ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 各施設において、施設や展示機器の老朽化が進み、対応が追いついていないため、個所、個数が累積している。特に原敬生家や渋民の旧齋藤家などの茅葺屋根の状態悪化が進んでおり、来訪者の印象を下げていると思われる。 資料のデジタル化を進めるための統一的なシステムの構築や設備が整っていない。 資料保管に閉校した学校の校舎などを活用しているが、それらも老朽化が進んでおり、適切な保存環境を確保できていない。 																								

平成27年度～令和6年度の実績値の推移

要因分析
<ul style="list-style-type: none"> 来場者数については、平成28年度をピークとして頭打ちが続いていた中、コロナ感染症拡大により活動自粛が求められ、展示や講座の開催も難しく、来館者が激減したが、その中でも資料の整理や研究などを地道な活動を継続し、コロナ以降には、それぞれの施設の特色を生かした企画展や特別展、講座やワークショップの開催により、ニューヨークタイムズ紙の記事やインバウンド効果などの後押しを有効に活用しつつ、来館者を呼び戻しつつある。 令和3年には原敬記念館において、デジタルサイネージによる展示や原敬の声の再現など、展示におけるデジタル技術の取り込みを図ったほか、令和6年にはもりおか歴史文化館において盛岡城跡石垣の修復に合わせた特別展や、いしがきミュージックフェスティバルに合わせた、遺跡の学び館との共同によるパネル展示の開催するなど、新たな取り組みを行い、さらには石川啄木記念館と玉山歴史民俗資料館の複合化によるリニューアル工事や遺跡の学び館の大規模改修を進めるなど、将来に向けた施設の魅力と利用者利便性の向上を図り、さらなる来館者の獲得に向けた事業を推進したところである。 一方で、施設等の老朽化や、展示及び利用者利便設備に関するデジタル化の対応が遅れており、令和6年度には志波城古代公園における破損した施設の解体撤去を実施し、利用者の安全対策を行ったところではあるが、リピーターや新規来館者の獲得への懸念材料となっている。

【小施策評価(令和6年度実績評価及び平成27年度～令和6年度総括)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	文化国際課
施策	12	芸術文化の振興	評価 責任者	城守 まゆみ 内線 3710
小施策	12-1	芸術・文化活動の充実	評価 シート 作成者	木村 学 内線 3716

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
市民の価値観が多様化していることから、コンサートや演劇、美術展などの芸術鑑賞事業や各種講座など、芸術文化に親しむ機会を提供する事業については、市民ニーズの把握に努めるとともに、それぞれの文化会館の特色を生かしながら、魅力ある事業展開を図る必要がある。	優れた芸術を鑑賞する機会を提供するとともに、市民自らが表現する場や芸術団体が相互に交流する場の創設と芸術文化団体の活動を支援する。
芸術文化活動の振興を図るため、活動発表の機会を設けているほか、優れた公演や事業などに対して共催や後援を行い支援しているが、市民の自主的な活動を促進するため、更に効果的な支援、育成に取り組む必要がある。	
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民、芸術・文化に関わる人・団体	芸術・文化活動に参加できる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和6年度実績)

実績値の推移				単 位	目指す方向
指標① 芸術文化事業鑑賞者数		人	↗		
当初値 (H25)	28,372	R1目標値	29,500	R6目標値	31,000
指標② 文化会館活動参加者数		人	↗		
当初値 (H25)	10,741	R1目標値	10,900	R6目標値	11,800
指標③ 盛岡芸術祭参加者数		人	↗		
当初値 (H25)	11,453	R1目標値	11,500	R6目標値	12,000

実績の評価	
成果点	成果の要因分析
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に比べ開催事業数に大差はないが鑑賞者数は増加しており、特に盛岡市民文化ホールにおいては、約5,000人ほど増加となっており、芸術文化の鑑賞・体験機会を提供することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響による社会経済活動の制限がなくなり、鑑賞者数が増加していることが考えられる。 ・集客力が大きい「原田治 展「かわいい」」の発見 Osamu Harada: Finding "KAWAII"を開催したことにより鑑賞者数が増加したものと考える。
問題点	問題の要因分析
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響による社会経済活動の制限がなくなったが、令和6年度に掲げた目標値に対し、12,593人少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数年にわたり芸術文化事業の中止や規模縮小が続いた影響で、市民生活の中で芸術文化事業を鑑賞したいという動機を持つきっかけが少なくなっていることが考えられる。
成果点	成果の要因分析
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受ける前の平成30年度以前の参加者数の水準に回復傾向しつつあり、多くの方が文化会館での活動に参加することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類感染症」に移行したことで、行動の制限が緩和されたことにより社会活動が活発化したことから、参加者数も増加したものと考えられる。 ・盛岡文士劇公演復活後、30周年を記念し、4回公演を実施したことで、参加者が増加したものと考えられる。
問題点	問題の要因分析
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と比較し、文化会館での活動参加者数が1,440人に減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数年にわたり芸術文化事業の中止や規模縮小が続いた影響で、市民生活の中で文化会館活動事業に参加したいという動機を持つきっかけが少なくなっていることが考えられる。 ・令和5年度には例年にはない「盛岡文士劇東京公演」が開催されたこともあり、令和5年度と比較し、参加者数の減少につながったものとする。
成果点	成果の要因分析
<ul style="list-style-type: none"> ・参加者数は昨年度の1,197人増となり、昨年よりも多くの方が参加することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度には書道部門と併せてジュニア書道展を併催、令和6年度には、洋画部門と併せてジュニア絵画展を併催し、若年層の参加者を確保する取組を実施したことで、参加者数の増加につながったと考えられる。
問題点	問題の要因分析
<ul style="list-style-type: none"> ・徐々に参加人数は増加しているが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受ける前の平成30年度の参加者数の水準までは戻っておらず、以前に比べて盛岡芸術祭に参加する市民が少なくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の高齢化による出品数の減少や、新型コロナウイルス感染症拡大による活動制限が長期化したこともあり、芸術文化活動への参加意欲や関心が薄れてしまったものと考えられる。

平成27年度～令和6年度の実績値の推移

要因分析
<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度から令和元年度までは、平成28年度以外は目標値を達成していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による催事の中止や、活動の自粛によって令和2年度以降の鑑賞者数が大幅に減少した。 ・令和3年度以降は、これまで中止していた事業の再開や入場者の制限せず開催したことなどにより回復傾向にあるものの、数年にわたり芸術文化事業の中止や規模縮小が続いた影響で、市民生活の中で芸術文化事業を鑑賞したいという動機を持つきっかけが少なくなっていることが考えられる。 ・平成30年度や令和4年度は、鑑賞者数が大きく増加しているが、会期が長く、集客力がある企画展が開催されたことが要因として考えられる。
<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度に令和元年度の目標値を上回ることができたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による催事の中止や活動の自粛によって参加者数が大幅に減少したことにより、令和2年度以降、令和6年度の目標値に達していない。 ・令和3年度以降は、これまで中止していた事業の再開や入場者の制限せず開催したことなどにより回復傾向にあるものの、数年にわたり芸術文化事業の中止や規模縮小が続いた影響で、芸術文化事業を鑑賞したいという動機を持つきっかけが少なくなっていることなどにより、令和6年度の目標値に達していない。
<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度までは、10,000人を超える参加者がいたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による催事の中止や、活動の自粛等によって参加者数が大幅に減少した。 ・参加者の高齢化による出品数の減少や、新型コロナウイルス感染症拡大による活動制限が長期化したこともあり、芸術文化活動への参加意欲や関心が薄れてしまったものと考えられる。 ・令和5年度には書道部門と併せてジュニア書道展を併催、令和6年度には、洋画部門と併せてジュニア絵画展を併催し、若年層の参加者を確保する取組を実施したことで、参加者数の増加につながったと考えられる。

【小施策評価(令和6年度実績評価及び平成27年度～令和6年度総括)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	文化国際課
施策	12	芸術文化の振興	評価 責任者	城守 まゆみ 内線 3710
小施策	12-2	文化施設の整備と活用	評価 シート 作成者	木村 学 内線 3716

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
文化会館は各施設とも建設から20年以上経過しており、設備も老朽化してきていることから、安全・快適で機能的な活動環境の提供に当たっては、適正な管理運営と計画的な施設設備の修繕や更新に努める必要がある。また、寄贈を受けた多数の市所蔵美術品の管理や有効活用を図る必要がある。	文化施設利用者へのサービス向上のため、計画的に設備の更新、修繕を実施する。また、市民の自主的・創造的な芸術文化活動が活発に行われるように、文化施設の活用を図る。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
芸術文化施設	芸術文化活動の場として、より活用が促される。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和6年度実績)

実績値の推移				実績の評価																									
				成果点	成果の要因分析																								
指標①	文化会館平均利用率	単 位	目指す方向	成果点	成果の要因分析																								
		%	↗																										
当初値 (H25)	72	R1目標値	74	R6目標値	75																								
<table border="1"> <caption>文化会館平均利用率の推移</caption> <tr><th>年度</th><th>利用率 (%)</th></tr> <tr><td>当初値 (H25)</td><td>72.3</td></tr> <tr><td>H27</td><td>74.1</td></tr> <tr><td>H28</td><td>74.9</td></tr> <tr><td>H29</td><td>70.9</td></tr> <tr><td>H30</td><td>75.2</td></tr> <tr><td>R1</td><td>68.2</td></tr> <tr><td>R2</td><td>43.8</td></tr> <tr><td>R3</td><td>60.3</td></tr> <tr><td>R4</td><td>61.5</td></tr> <tr><td>R5</td><td>63.9</td></tr> <tr><td>R6</td><td>66</td></tr> </table>				年度	利用率 (%)	当初値 (H25)	72.3	H27	74.1	H28	74.9	H29	70.9	H30	75.2	R1	68.2	R2	43.8	R3	60.3	R4	61.5	R5	63.9	R6	66	<p>・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により減少していた利用率が、昨年の63.9%から66%まで増加した。</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類感染症」に移行したことで、集会等で文化会館を利用する市民が戻ってきたためと考えられる。</p>
年度	利用率 (%)																												
当初値 (H25)	72.3																												
H27	74.1																												
H28	74.9																												
H29	70.9																												
H30	75.2																												
R1	68.2																												
R2	43.8																												
R3	60.3																												
R4	61.5																												
R5	63.9																												
R6	66																												
問題点				問題の要因分析																									
<p>・利用率は昨年度より増えているものの、令和元年度以前の水準までは回復しておらず、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前と同様の利活用が図られているとは言い難い。</p>				<p>・新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴う催事の中止や延期が長期化したことから、主催者側での催事の実施体制(ノウハウや運営人員など)も縮小されており、以前のように催事を実施できる体制が組めなくなっている例もあるものと考えられる。 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一部の利用団体が活動自粛を続けるうちに解散したためと考えられる。</p>																									
指標②	文化会館利用者数	単 位	目指す方向	成果点	成果の要因分析																								
		人	↗																										
当初値 (H25)	432,906	R1目標値	440,000	R6目標値	450,000																								
<table border="1"> <caption>文化会館利用者数の推移</caption> <tr><th>年度</th><th>利用者数 (人)</th></tr> <tr><td>当初値 (H25)</td><td>432,906</td></tr> <tr><td>H27</td><td>435,101</td></tr> <tr><td>H28</td><td>398,762</td></tr> <tr><td>H29</td><td>435,300</td></tr> <tr><td>H30</td><td>385,325</td></tr> <tr><td>R1</td><td>351,109</td></tr> <tr><td>R2</td><td>100,901</td></tr> <tr><td>R3</td><td>175,781</td></tr> <tr><td>R4</td><td>271,724</td></tr> <tr><td>R5</td><td>317,040</td></tr> <tr><td>R6</td><td>355,553</td></tr> </table>				年度	利用者数 (人)	当初値 (H25)	432,906	H27	435,101	H28	398,762	H29	435,300	H30	385,325	R1	351,109	R2	100,901	R3	175,781	R4	271,724	R5	317,040	R6	355,553	<p>・依然として新型コロナウイルス感染症の影響を受ける以前までは戻っていないものの、利用者数は年々増加し、令和元年度の利用者数まで戻りつつある。</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類感染症」に移行したことで、集会等で文化会館を利用する市民が戻ってきたためと考えられる。</p>
年度	利用者数 (人)																												
当初値 (H25)	432,906																												
H27	435,101																												
H28	398,762																												
H29	435,300																												
H30	385,325																												
R1	351,109																												
R2	100,901																												
R3	175,781																												
R4	271,724																												
R5	317,040																												
R6	355,553																												
問題点				問題の要因分析																									
<p>・新型コロナウイルス感染症による制限が解除され、利用者数が回復基調となっているが、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の令和元年度の参加者数の水準までは戻っていない。</p>				<p>・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一部の利用団体が活動自粛を続けるうちに解散したためと考えられる。</p>																									

平成27年度～令和6年度の実績値の推移

要因分析
<p>・平成27年度から令和元年度までは概ね目標値を達成していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による催事の中止や、活動の自粛によって令和元年度以降の利用率が大幅に減少した。 ・令和3年度以降は回復傾向にあるものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による活動自粛により、定期的に文化会館を利用していた団体の一部が解散したことで、利用率の減につながっていると考えられる。</p>
<p>・平成27年度から令和元年度までは概ね目標値を達成していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による催事の中止や、活動の自粛によって令和元年度以降の利用者数が大幅に減少した。 ・令和3年度以降は回復傾向にあるものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による活動自粛により、定期的に文化会館を利用していた団体の一部が解散したことで、利用者数の減につながっていると考えられる。</p>

【小施策評価(令和6年度実績評価及び平成27年度～令和6年度総括)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	スポーツ推進課	
施策	13	スポーツの推進	評価 責任者	佐藤 理恵	内線 3770
小施策	13-1	ライフステージに応じたスポーツ活動等の推進	評価 シート 作成者	菅原 迅	内線 3771

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
市民一人ひとりが、生涯にわたりスポーツに親しみ、スポーツを通じて健康でいきいきと暮らすためには、スポーツや健康づくりに関する推進体制の充実やスポーツ指導者の発掘・養成、さらには、魅力ある企画や情報提供など、多面的な環境づくりを進める必要がある。 競技スポーツは、ジュニア期からの一貫した指導による選手の育成・強化が大切であり、指導者の確保や各種大会への参加支援のほか、競技スポーツに対する市民の関心を高め理解を深める必要がある。 学校体育やスポーツ少年団活動の充実などによる子どもたちの健全育成に努める必要がある。	すべての市民がスポーツや健康づくりに参画する機会が確保できるようにソフト面での充実を図り、ニーズに応じてスポーツや健康づくりに親しみ、楽しめる活動などを推進します。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民	多くの市民がスポーツに参加している。
生涯スポーツに関わる団体・指導者	市民がスポーツに関わる機会を多く提供している。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和6年度実績)

実績値の推移				単 位	目指す方向
指標① 市の事業数				件	↗
当初値 (H25)	696	R1目標値	700	R6目標値	770
指標② 事業参加者数				人	↗
当初値 (H25)	189,813	R1目標値	200,000	R6目標値	210,000

実績の評価	
成果点	成果の要因分析
<p>・事業数は、コロナ禍の令和2年度から令和3年度にかけて大きく落ち込んだものの、令和4年度で目標値を上回り、令和6年度も目標値を達成した。</p>	<p>市スポーツ協会などの関係団体との連携が進み、市との共催などによる事業が増えている。また、新型コロナウイルス感染症の5類移行、市民へ身近で気軽に行けるウォーキングなどの啓発により、市民のスポーツの関心の高まり、大会やイベントなどの事業の増に繋がっているものと考えられる。</p>
問題点	問題の要因分析
<p>・競技種目の大会等の事業数は、横ばいの傾向にある。 ・競技種目のスポーツ大会は充実しているものの、生涯スポーツや年齢に応じたスポーツを通じての健康づくり事業は少ない。</p>	<p>・競技団体等の指導者や審判などの担い手が高齢化・固定化しており、併設開催や集約化の傾向にある。 ・競技団体及び指定管理者などと連携した生涯スポーツや健康づくりの観点による事業を検討し、構築する取組が十分にできていない。</p>
成果点	成果の要因分析
<p>・各種スポーツ大会やスポーツ教室等において、子どもと保護者が一緒に参加できるスポーツの機会の提供やいわて盛岡シティマラソン大会などの各種大会の再開を進めた。 ・いわて盛岡シティマラソン及び盛岡・北上川ゴムボート川下り大会の参加者は、前年と比較して増加している。</p>	<p>・各イベントにスポーツ推進委員を積極的に派遣、スポーツ大会等への共催・後援を進め、参加者が増加するよう取り組んだ。 ・市スポーツ推進計画に基づく「スポーツを始めたくなるきっかけづくり」として小学生等に焦点を当てた事業に力を入れ、スポーツの機会の提供ができた。 ・新型コロナウイルス感染症の5類移行により、いわて盛岡シティマラソン大会などの各種大会が制限なく開催できた。</p>
問題点	問題の要因分析
<p>・新型コロナウイルス感染症拡大前の事業参加者数に戻っていない。 ・生涯スポーツや年齢に応じたスポーツの事業が少ないため、参加者の世代に偏りが見られる。 ・いわて盛岡シティマラソン及び盛岡・北上川ゴムボート川下り大会などの事業に要する経費が増加し、参加料の増となっている。</p>	<p>・コロナ禍により生活習慣が変容してしまい、新型コロナウイルス感染症拡大前にはあった運動習慣やイベント等への参加の継続性が失われている可能性がある。 ・仕事などで時間に制約のある働く世代が、それぞれのライフスタイルに応じて気軽にスポーツに取り組むための職場や夜間・休日等のスポーツの環境整備が十分でないと思われる。 ・物価や人件費が急激に上昇しており、いわて盛岡シティマラソン及び盛岡・北上川ゴムボート川下り大会などの参加料に転嫁となっている。</p>

平成27年度～令和6年度の実績値の推移

要因分析
<p>・市スポーツ協会などの関係団体との連携が進み、市との共催などによる事業が増えている。 ・競技団体等の指導者や審判などの担い手が高齢化・固定化しており、併設開催や集約化などの傾向がある。 ・ラグビーワールドカップ2019日本大会や東京2020オリンピックの事前キャンプの実施、テニスの国別対抗戦であるデビスカップ、日本スポーツマスターズ2022岩手大会、クライミングワールドカップの開催により、市民のスポーツに対する関心を高めることができ、選手との交流事業やパブリックビューイング、無料観戦招待など、市民参加のサブイベントを充実させることができた。 ・コロナ禍においては、啄木の里ふれあいマラソン代替企画ランニングクリニックやいわて盛岡シティマラソンオンラインマラソンなどを企画・開催し、市民の運動機会の創出を図ったものの、スポーツ施設における教室等が実施不能だったこともあり、事業数、事業参加数とも、大幅に落ち込んだ。</p>
<p>・地域のスポーツイベントなどへのスポーツ推進委員の派遣が増えたことにより、ポッチャなどニュースポーツが広まり、市民のスポーツに対する関心を高め、参加者の増につながっている。 ・働く世代の参加者数が少なく、それぞれのライフスタイルに応じたスポーツに親しむ機会や周知が十分でないと思われる。 ・平成28年度にいわて銀河国体、令和元年にはラグビーワールドカップ2019日本大会と1回目となるいわて盛岡シティマラソンが開催、これらの実施にあわせて様々なサブイベントも開催されたことで、事業参加者数の減少傾向に多少の歯止めになったと思われる。 ・令和元年度に第1回いわて盛岡シティマラソンを開催し、約9千人の参加があったが、コロナ禍により令和2・3年度は中止、令和4年度は、約5千人の参加と新型コロナウイルス感染症拡大前の約半分の水準まで落ち込んでしまった。その後、徐々に回復傾向にあるものの、コロナ禍前の水準に至っていないことから、生活習慣の変容等が懸念される。</p>

【小施策評価(令和6年度実績評価及び平成27年度～令和6年度総括)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	スポーツ推進課	
施策	13	スポーツの推進	評価 責任者	佐藤 理恵	内線 3770
小施策	13-2	スポーツ施設の整備充実	評価 シート 作成者	菅原 迅	内線 3771

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
市民がスポーツを継続するためには、スポーツ施設を適正に配置するほか、効果的・効率的運営と施設の充実を図る必要がある。	市民ニーズに対応した新たな施設の整備や老朽化やユニバーサルデザインに対応する改修など、アセットマネジメントの考え方を踏まえながら、適切なスポーツ施設の配置及び整備・改修を行う。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民	場(施設)が提供される。
スポーツ・レクリエーション施設	適切に配置され、充実した機能を備えている。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和6年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
				成果点	成果の要因分析
指標① 施設利用者	単 位	目指す方向			
	人	↗			
当初値 (H25)	970,673	R1目標値	1,120,000	R6目標値	1,270,000
				問題点	問題の要因分析
				<ul style="list-style-type: none"> 施設利用者数は、R6目標値には至らなかったが、新型コロナウイルス感染症拡大前を上回る状況となり、市民がスポーツをする機会を拡大させることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことにより、スポーツ大会等の開催が感染拡大前の状況に戻ったことに加え、令和5年度からいわて盛岡ボールパークが供用開始されたことにより、施設利用者数が大きく増加した。
				<ul style="list-style-type: none"> 施設修繕や競技用具の不具合により施設の利用が一部制限される場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> アセット計画等に基づく修繕に加えて、老朽化に伴う突発的な修繕や備品更新が発生しており、対応が追いついていない。

平成27年度～令和6年度の実績値の推移

要因分析
<ul style="list-style-type: none"> アセット計画等に基づく施設の改修や、太田テニスコート上屋整備、アイスアリーナの通年フロア化などにより施設の利便性の向上を図ったほか、アイスリンクの整備により市外からの利用者呼び込むことができ、施設利用者の増加に繋がったものと考えられる。 令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症の影響により施設利用者が大きく減少したが、5類感染症への移行に加え、令和5年度からいわて盛岡ボールパークが供用開始されたことにより、感染拡大前よりも施設利用者数が増加した。 施設の稼働率は良好であるが、人口減少、高齢化、趣味の多様化などの社会情勢により、1団体当たりの活動人数が減少しており、目標の達成には至らなかった。

【小施策評価(令和6年度実績評価及び平成27年度～令和6年度総括)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	スポーツ推進課	
施策	13	スポーツの推進	評価 責任者	佐藤 理恵	内線 3770
小施策	13-3	スポーツ団体等との連携強化	評価 シート 作成者	菅原 迅	内線 3771

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
スポーツ大会などの企画運営や競技力向上のためには、指導にあたる組織や人材が必要となるため、スポーツを支えるための組織・人材などとの連携を強化する必要がある。		市民へのスポーツの普及・定着化と競技力の向上を目指すため、広域市町、関係機関・団体などとの連携を強化する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
スポーツ団体等		団体の役割を明確にし、市民のスポーツ活動が活発に展開される環境を作る。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和6年度実績)

実績値の推移			実績の評価	
指標	単 位	目指す方向	成 果 点	成 果 の 要 因 分 析
指標① 市が共催・後援する事業の数	事業	↗		
当初値 (H25)	193	R1目標値 240	R6目標値 290	
			<ul style="list-style-type: none"> 盛岡市スポーツ協会、各競技団体、総合型地域スポーツクラブ等の共催・後援事業数について、令和6年度は前年度比で約6%増加となり、新型コロナウイルス感染症拡大前の水準に戻りつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> 市スポーツ協会などの関係団体との連携が進み、共催・後援の事業の増に繋がっていると思われる。 岩手県と盛岡市の共同整備により「いわて盛岡ボールパーク」を整備し、経過年と共に市民にも浸透し、スポーツをする環境が向上した。
			<ul style="list-style-type: none"> 指定管理者からスポーツ施設の運営に係る共催等の見直しの要望がある。 競技種目の大会等の開催が横ばいの傾向となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 共催事業を拡大することにより、施設使用料の減免の増に繋がりが、指定管理施設の収入減になることから、バランスを図る必要がある。 競技団体等の指導者や審判の高齢化・固定化によりスポーツ大会等の併設開催や集約化が進んでいる。
指標② 総合型地域スポーツクラブの数	団体	↗		
当初値 (H25)	5	R1目標値 12	R6目標値 24	
			<ul style="list-style-type: none"> 総合型地域スポーツクラブの事業が定着し、運営が安定的に行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> 開催するイベントや大会について、市との共催により周知や活動場所の施設使用料の減免等の支援が安定的な運営につながっているものと考えられる。
			<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度以降増えていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合型地域スポーツクラブの創設は、法人化等の団体の準備に時間を要する。 総合型地域スポーツクラブを立ち上げるノウハウを持っている人材が少なく、人材の育成が追いついていないことが要因と考えられる。

平成27年度～令和6年度の実績値の推移

要因分析
<ul style="list-style-type: none"> 当初値から順調な上昇が見られた後、コロナ禍により一時的な落ち込みが見られたが、市スポーツ協会などの関係団体との連携やスポーツの環境整備が進み、再び上昇傾向が見られるようになった。 目標値と現状値には大きな乖離が見られ、ここ数年の上昇幅を鑑みても目標値への到達は難しい状況である。 競技団体等の指導者や審判の高齢化・固定化によりスポーツ大会等の併設開催や集約化が見られる。
<ul style="list-style-type: none"> 当初値から上昇が見られるものの、最終年の時点で目標値の3分の1に留まる結果となった。総合型地域スポーツクラブに携わる人材が不足していること、維持するための管理・運営が難しいことがクラブ側から言われている。 令和6年度の目標値は国の指針により各中学校区へ1団体という指針により立てられた目標であるが、近年は国の方針がクラブの量から質へと視点が見直されている。

【小施策評価(令和6年度実績評価及び平成27年度～令和6年度総括)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	スポーツ推進課	
施策	13	スポーツの推進	評価 責任者	佐藤 理恵	内線 3770
小施策	13-4	プロスポーツ等との連携	評価 シート 作成者	菅原 迅	内線 3771

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
本市をホームタウンとするプロスポーツのチームの活躍は、まちの活性化、スポーツ人口の拡大など、さまざまな効果が期待できるため、市民の関心を高めるさまざまな施策を講じる必要がある。		市民のスポーツへの関心を高めるとともに、スポーツを通じた地域活性化を目指して、プロやプロを目指すチームとの連携を図る。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇔	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民 プロスポーツ団体等		スポーツへの関心が高まる。 優勝するなど、市民のスポーツへの関心が高まるような成績を残す。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和6年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単 位	目指す方向	成果点	⇒	成果の要因分析
指標① プロチーム等のチーム会員数	人	↗	当初値 (H25) 2,177 R1目標値 14,000 R6目標値 24,000 	⇔	・試合会場や練習施設の優先利用や施設使用料の軽減を行ったことにより、プロスポーツチーム等が積極的な集客に取り組めたものと考えている。 ・プロスポーツチーム等がファンクラブの特典見直しや子どもの観戦無料等の取組が繋がったものと思われる。
			問題点	⇔	問題の要因分析
			・実績値が目標値を大きく下回っている。		・当初の目標値の設定の際に、会員数を増やすプロジェクトを実施し、一時的に増加した数を目標値に設定したため、実情よりも過大な目標を立ててしまったことが要因である。
指標② プロチームが市事業を受託した件数	件	↗	当初値 (H25) R1目標値 0 R6目標値 4 	⇔	・いわてグルージャ盛岡の運営会社である(株)いわてアスリートクラブがつなぎ多目的運動場の指定管理事業を引き続き受託し、繋地区にプロスポーツチーム等が関わり、地域活性化に貢献している。
			問題点	⇔	問題の要因分析
			・実績値が目標値を下回っている。		・令和2・3年度は、新型コロナウイルス感染症関連の補助金・交付金を活用したものである。プロスポーツ団体の特徴を生かせる事業が少なく、さらに継続可能な事業となると限られる。

平成27年度～令和6年度の実績値の推移

要因分析
・平成27年度の一時的な大幅な増加は、岩手ビッグブルズが実施した会員1万人プロジェクトにより、短期間で1万人突破の目標を達成したことから、突出した数字となっている。 ・平成28年度以降は、横ばいで推移しているが、当初の目標値の設定の際に、会員数を増やすプロジェクトを実施し、一時的に増加した数を目標値に設定したため、実情よりも過大な目標を立ててしまったため、目標値と大きく乖離した結果となっている。
・令和2・3年度については、新型コロナウイルス感染症関連の補助金・交付金を活用し、一時的に増加したものである。令和4年度以降は、1件数を推移しており、プロスポーツ団体の特徴を生かせる事業が少なく、継続した事業が困難なため、今後も件数の増は難しいと思われる。

【小施策評価(令和6年度実績評価及び平成27年度～令和6年度総括)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	スポーツ推進課	
施策	13	スポーツの推進	評価 責任者	佐藤 理恵	内線 3770
小施策	13-5	希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の遺産の継承	評価 シート 作成者	坂下 剛	内線 3776

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の遺産(レガシー)を未来に引き継ぎ、東京 2020 オリンピック・パラリンピックのホストタウン事業における成果を生かし、関係団体と連携・協力して、圏外からの大会や合宿等の誘致を図るほか、盛岡広域圏の魅力を発信し、盛岡広域圏の資源を生かしたスポーツツーリズムを推進し、交流人口の拡大を目指す。	希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の遺産(レガシー)と東京 2020 オリンピック・パラリンピックのホストタウン事業における成果を生かし、スポーツによる交流人口の拡大、広域的な地域スポーツの推進に取り組む。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民	スポーツへの興味、関心を持ち、「する」「見る」「支える」形で参加する。
県内外のスポーツ競技団体	スポーツツーリズムとして本市に興味を持ち、国際大会、全国大会を開催する。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和6年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標① 事前合宿・全国大会受け入れ数		単 位	目指す方向	成 果 点	成果の要因分析
当初値 (H25)	R1目標値	種目	→	問 題 点	問題の要因分析
0	3				
				<p>・スポーツクライミングの第12回リードユース日本選手権いわて盛岡大会と第10回ボルダージュース日本選手権いわて盛岡大会のほか、第32回全日本マスターズハンドボール盛岡・滝沢大会、第74回全国高等学校スピードスケート競技選手権大会が盛岡で開催され、目標を達成することができた。</p>	<p>・スポーツクライミングにおいては、県と共に競技団体の全国組織に誘致活動を行ったほか、大会開催に伴い組織した実行委員会に対し、運営資金を負担した。</p> <p>・大会開催に繋がった要素として、県内競技団体の誘致活動、交通利便性や会場スペック、風土(観光・温泉・食等)、開催に向けた財政支援や運営への協力などの受け入れ体制の良さなどが主催者や地元競技団体から評価を得られた点が挙げられる。</p>
<p>・大型大会や事前合宿の誘致対象である首都圏や海外の主催者にとって、選手やスタッフの移動費や宿泊費等の負担が大きい。</p> <p>・日本代表レベルの試合やトッププロの大会を開催するためには、観客席が十分でないほか、練習調整用のサブアリーナ(サブプール・サブリンク)がない。また、日本山岳・スポーツクライミング協会は県に対し、全国大会を開催できる屋内施設の設置を要望しているなど、現況の施設では、競技団体の要求水準を満たさなくなりつつある。</p>				<p>・他都市で実施している大会や合宿を盛岡に誘致するためには、財政支援等、他都市と比較した際の優位性を示す必要がある。</p>	

平成27年度～令和6年度の実績値の推移

要因分析
<p>・新型コロナウイルス感染症の拡大前は、事前合宿として、ラグビーワールドカップ2019日本大会のナミビア代表チームを受け入れたほか、Tokyo2020オリンピックのホストタウンとして、カナダのスポーツクライミング、7人制女子ラグビー、水球の代表チームを受け入れた。</p> <p>・コロナ禍においても、感染症対策を実施した上でスポーツクライミングの第4回コンバインドジャパンカップを実施したほか、IFSCクライミングワールドカップボルダークアンドリードコンバインドを誘致・開催することができた。</p> <p>・スポーツクライミングについては、誘致活動や負担金の拠出が成果を結び、1～2年おきに盛岡で全国大会が開催されるようになった。</p> <p>・競技性が高くなく生涯スポーツの色合いが強い水泳やハンドボールなどのマスターズをはじめとする大会が、ほぼ毎年開催されるようになってきている。交通利便性の高さや、風土の良さが評価されているものと思料される。</p>

【小施策評価(令和6年度実績評価及び平成27年度～令和6年度総括)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	都市戦略室	
施策	14	「盛岡ブランド」の展開	評価 責任者	平山 久枝	内線 3805
小施策	14-1	市民・事業者との意識共有	評価 シート 作成者	鷹木 祐介	内線 3868

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
盛岡らしい有形・無形の価値や魅力を「盛岡ブランド」として整理・体系化し、発信してきましたが、市民や事業者への浸透が十分ではなく、盛岡ブランドをよく理解してもらう必要がある。	市民や事業者が盛岡ブランドをよく理解してもらい、意識共有を図るための取組を充実・強化することにより、市民一人ひとりが盛岡に対する誇りや愛着を抱くシビックプライド*2の醸成を図ります。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民	盛岡への誇りや愛着を抱いてもらう。
市民以外の人	盛岡を知り、興味・関心を持ち、好きになってもらう。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和6年度実績)

実績値の推移				実績の評価																																					
指標①	単 位	目指す方向	成果点	成果の要因分析	問題点																																				
まちづくり評価アンケート調査「盛岡が好き」と答えた市民の割合	%	↗	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の総合学習を通じて、盛岡ブランドを周知し、子どもたちの郷土愛の醸成を図ることができた。 ・盛岡ブランド市民推進委員会と連携し、自主事業として「MORIOKA CINEMAS and BOOKS」を実施し、盛岡がロケ地となっている「そして、生きる」を上映することでシティプロモーションを推進することができた。 ・関係人口交流拠点「盛岡という星でBASESTATION」を通じて、高校生の探究学習への支援を行ったことにより、高校生の地域課題に対する興味や関心が高まるとともに、地域への理解と郷土愛の醸成を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の総合学習で盛岡ブランドを周知する機会が増加し、子どもたちの郷土愛の醸成を図ることができた。 ・盛岡ブランド市民推進委員会と連携し、盛岡にゆかりのある本や映画を活用したシティプロモーションの推進を行うことができた。 ・新たなプロモーション素材として、秋と冬のプロモーション動画を作成し、盛岡の魅力を発信できた。 ・高校生への探究学習支援を行い、関係人口交流拠点「盛岡という星でBASESTATION」を活用して高校生がイベントの企画・実施を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり評価アンケート調査「盛岡が好き」と答えた市民の割合が下降した。 																																				
当初値 (H25)	78	R1目標値	80	R6目標値	80																																				
<table border="1"> <caption>実績値の推移 (指標①)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値 (%)</th> <th>目標値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当初値 (H25)</td> <td>78.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>77.7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>78.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>76.9</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>81.4</td> <td>R1目標値: 80</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>79.2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>78.6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>78.1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>78.6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>79.4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>79.1</td> <td>R6目標値: 80</td> </tr> </tbody> </table>						年度	実績値 (%)	目標値 (%)	当初値 (H25)	78.0		H27	77.7		H28	78.5		H29	76.9		H30	81.4	R1目標値: 80	R1	79.2		R2	78.6		R3	78.1		R4	78.6		R5	79.4		R6	79.1	R6目標値: 80
年度	実績値 (%)	目標値 (%)																																							
当初値 (H25)	78.0																																								
H27	77.7																																								
H28	78.5																																								
H29	76.9																																								
H30	81.4	R1目標値: 80																																							
R1	79.2																																								
R2	78.6																																								
R3	78.1																																								
R4	78.6																																								
R5	79.4																																								
R6	79.1	R6目標値: 80																																							
			問題の要因分析	<ul style="list-style-type: none"> ・取組の成果が指標の上昇に結び付かなかった。 																																					

平成27年度～令和6年度の実績値の推移

要因分析
<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度に目標値を達成したところであるが、他の年度はいずれも目標値以下となった。 ・アンケート結果によると、「盛岡市が嫌い」と答えた割合は、いずれの年度も2%未満となっていることから、「どちらともいえない」、「不明」と答えた無関心層に対するインナープロモーションの到達不足が要因として挙げられる。 ・今後も、市民一人ひとりが、盛岡に誇りや愛着を抱くことができるよう、引き続きシビックプライド醸成に向けた取組を実施する必要がある。

【小施策評価(令和6年度実績評価及び平成27年度～令和6年度総括)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	都市戦略室	現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)	
施策	14	「盛岡ブランド」の展開	評価 責任者	平山 久枝	内線 3805	盛岡市の認知度は、民間シンクタンクの調査によると、決して高くはなく、首都圏や関西以西において認知度を向上させる余地があることから、特産品やイベントなどの魅力を生かしながら、全国に向けて情報発信を効果的に行う必要がある。	発信に当たっては、シティプロモーション*3の視点から、マーケティング手法を用いて情報の受け手を選択し、ソーシャルメディア等の新たな広報・情報媒体の積極的な活用を図るほか、転出者や首都圏等に在住する盛岡出身者等、盛岡に関わりがある人をキーパーソンとする、人と人の繋がりによる盛岡の魅力の発信に取り組みます。	
小施策	14-2	情報発信の強化	評価 シート 作成者	鷹木 祐介				内線 3867
					対象(誰(何)を対象として行うのか)		⇒	
					市民			盛岡への誇りや愛着を抱いてもらう
					市民以外の人			盛岡を知り、興味・関心を持ち、好きになってもらう

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和6年度実績)

実績値の推移			実績の評価		平成27年度～令和6年度の実績値の推移
指標	単位	目指す方向	成果点	成果の要因分析	
指標① 地域ブランド調査「魅力度における盛岡市の順位」	位	↑	<ul style="list-style-type: none"> ・シティプロモーションをテーマに地域おこし協力隊を任用した。 ・盛岡ブランド市民推進委員会と連携し、自主事業として「MORIOKA CINEMAS and BOOKS」を実施し、盛岡がロケ地となっている「そして、生きる」を上映することでシティプロモーションを推進することができた。 ・関係人口を機軸とした移住・定住・交流人口対策事業「盛岡という星で」プロジェクトとして一貫性を持たせたことにより、効果的な発信につながった。 ・新たなプロモーション素材として、秋と冬のプロモーション動画を作成し、盛岡の魅力を発信できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・盛岡ブランド市民推進委員会と連携し、盛岡にゆかりのある本や映画を活用したシティプロモーションの推進を行うことができた。 ・関係人口を機軸とした移住・定住・交流人口対策事業の一連の取組を「盛岡という星で」プロジェクトとして一貫性を持たせたことにより、効果的な発信につながった。 ・新たなプロモーション素材として、秋と冬のプロモーション動画を作成し、盛岡の魅力を発信できた。 	<p>要因分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年に目標値である50位以内を達成した一方で、コロナ禍により対面での交流に制限が生じるなど、市の魅力を周知する機会が限定されたことから、一時期順位が下降した。 ・その後、新たなシティプロモーション素材を作成したり、「盛岡という星で」プロジェクトによる効果的な情報発信を行ったことで、コロナ禍前並に順位を戻すことができた。 ・順位は、約1000自治体中の順位であり、各年度とも上位10%である100位前後に位置しており、市が行っているシティプロモーションは一定の効果があったと考える。 ・今後も継続して100位以内に入り続けることを目標として、市内外に対する効果的なプロモーションを行う必要があるものとする。
当初値(H25)	58	R1目標値	50	R6目標値	
			問題点	問題の要因分析	
			・地域ブランド調査「魅力度における盛岡市の順位」が下降した。	・調査では、「あまり魅力的でない」、「全く魅力的でない」と答えた割合は、前年度から変動はなかったが、「どちらでもない」と答えた割合が増えたため無関心層へのプロモーションが必要である。	
指標② 観光客入込数	万人回	↑	<ul style="list-style-type: none"> ・盛岡ブランド市民推進委員会と連携し、自主事業として「MORIOKA CINEMAS and BOOKS」を実施し、盛岡がロケ地となっている「そして、生きる」を上映することでシティプロモーションを推進することができた。 ・舟運通航実験(8回)及び北上川沿の木伏緑地や八幡町、大慈寺、鉾屋町界隈の各種イベントと連携した北上川フェスタ inMORIOKAを開催し、河川空間の賑わいを創出することができた。 ・北上川と盛岡市民の歴史的関りを広め、まちづくりに活かすことを目的とする舟運講演会を開催し、舟運事業の取組について効果的な情報発信に繋げることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・盛岡ブランド市民推進委員会と連携し、盛岡にゆかりのある映画の上映会を実施し、盛岡の文化や魅力の再発見と発信ができた。 ・実行委員会の構成団体である地元団体、国土交通省、市がそれぞれの広報チャンネルを使いPRすることで、事業の効果的なプロモーションに繋がった。 ・舟運講演会について、初めてパネルディスカッション方式を実施したことで様々な視座による意見の交換を講演会の内容として取り入れたため。 	<p>要因分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍以前は、目標値を達成していたところであるが、コロナ禍を契機に都道府県の跨いだ往来が制限されたことなどを理由に、観光客入込数が下降した。 ・コロナによる行動制限が緩和された令和4年度以降は、観光客入込数は回復傾向にあるが、依然として目標値には達していないことから、本市への人の流れを創出するため、今後は、外国人を含めたアウトタープロモーションの強化に努める必要がある。
当初値(H25)	472	R1目標値	500	R6目標値	
			問題点	問題の要因分析	
			・乗船人数について、各回共に満席を維持しているが、これ以上乗船人数を増やすことは難しい状況である。	・船長をはじめ運営スタッフの大半がボランティアによる従事であり、入込数増加を目的とした事業内容の充実に取り掛かることが難しいため。	

【小施策評価(令和6年度実績評価及び平成27年度～令和6年度総括)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	景観政策課	
施策	15	良好な景観の形成	評価 責任者	三橋 一仁	内線 7290
小施策	15-1	景観保存対策の充実	評価 シート 作成者	畑澤 巧	内線 7295

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
<ul style="list-style-type: none"> 盛岡らしい都市景観形成の実現のため、各地域の景観特性が生かされた景観形成を図る必要があります。 盛岡固有の佇まいを残す盛岡町家などの歴史的景観を保全・継承する必要があります。 優れた自然環境と歴史的環境とが調和する個性豊かな都市環境を次世代に継承していく必要があります。 		<ul style="list-style-type: none"> 景観計画に基づき、地域の特徴を生かした景観形成促進地区などの指定を行うとともに、優れた景観や建造物などの保全・活用について、市民との協働による取組を進め、景観に配慮した快適で美しく活気ある街並み形成を進めます。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
街並み、山並み 市民・建築関係者		優れた景観が守られる。 景観に対する意識が高まる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和6年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単 位	目指す方向	成果点	⇒	成果の要因分析
指標① まちづくり評価アンケート調査「誇れる市街地の景観があると思う」と答えた市民の割合	%	↗	当初値 (H25) 70 R1目標値 75 R6目標値 79 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> 市有景観重要建造物の公開により、広く市民等に景観重要建造物を観覧する機会を設けたことが、市民の意識の向上につながった。 民有景観重要建造物の改修支援制度を継続するとともに、市有の景観重要建造物について必要に応じて柔軟に優先順位を付して修繕を行ったことで、建築物の維持管理保全につながった。 景観重要樹木の樹勢診断を行い、樹木の状態を把握したことにより、樹木の維持管理保全につながった。 景観計画区域内行為届出等制度により、形態・意匠・色彩等を誘導したことにより良好な景観が形成された。
当初値 (H25) 70	R1目標値 75	R6目標値 79	<ul style="list-style-type: none"> 景観重要建造物に係る維持保全の必要性について、市民等の意識を高めた。 市街地の豊かな歴史的環境が維持・保全された。 まちづくり評価アンケート調査「誇れる市街地の景観があると思う」と答えた市民の割合が当初値より増加した。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> 市有景観重要建造物の老朽化が顕著となりつつあり、計画的な改善が必要となっている。 民有景観重要建造物の老朽化が顕著となりつつあり、支援が必要となっている。 景観重要樹木の繁茂が顕著となりつつあり、周辺の安全性に懸念が生じている。
指標② まちづくり評価アンケート調査「誇れる田園・丘陵地の景観があると思う」と答えた市民の割合	%	↗	当初値 (H25) 60 R1目標値 69 R6目標値 79 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> 田園や丘陵地は、新たな建造物等が建設されることが抑制される地域であり、建設可能な新たな建造物等が建設される際において、景観に配慮した形態・意匠・色彩とするよう誘導することで、のびやかで美しい周辺の自然と調和した佇まいの維持・向上が図られた。
当初値 (H25) 60	R1目標値 69	R6目標値 79	<ul style="list-style-type: none"> 良好な景観が維持・保全された。 まちづくり評価アンケート調査「誇れる田園・丘陵地の景観があると思う」と答えた市民の割合が当初値より増加した。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> 景観重要建造物等の経年による劣化等を伝統工法で修繕するための資材費や人件費が高騰しており、市や所有者の負担が増大し、速やかな修繕に至らないケースが増加しているため。 景観重要樹木が繁茂する一方で、管理・処分費用が高額になりつつある。また、民有の樹木について、管理者が不明となるケースが生じている。
当初値 (H25) 60	R1目標値 69	R6目標値 79	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ・景観関係業務・事業等を継続して実施しており、良好な田園・丘陵地が保全されている。
指標③ まちづくり評価アンケート調査「誇れる山地の景観があると思う」と答えた市民の割合	%	↗	当初値 (H25) 70 R1目標値 75 R6目標値 79 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> 山地は新たな建造物等が建設されることが抑制される地域であり、建設可能な新たな建造物等が建設される際においては、景観に配慮した形態・意匠・色彩とするよう誘導することにより、豊かな自然に囲まれた現状の環境や眺望対象としての景観の維持が図られた。
当初値 (H25) 70	R1目標値 75	R6目標値 79	<ul style="list-style-type: none"> 山地における良好な景観が維持・保全された まちづくり評価アンケート調査「誇れる山地の景観があると思う」と答えた市民の割合が当初値より増加した。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ・景観関係業務・事業等を継続して実施しており、良好な山間地の景観が保全されている。
当初値 (H25) 70	R1目標値 75	R6目標値 79	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ・景観関係業務・事業等を継続して実施しており、良好な山間地の景観が保全されている。

平成27年度～令和6年度の実績値の推移

要因分析
<ul style="list-style-type: none"> 盛岡固有の市街地の景観が形成・維持されたことで、市民の評価が向上したと考えられる。 ニューヨーク・タイムズ紙「2023年に行くべき52か所」に取り上げられ、訪問者が増加したことが、盛岡固有の市街地の景観について再評価する機会になったものと考えられる。
<ul style="list-style-type: none"> 田園や丘陵地の景観が形成・維持されたことで、市民の評価が向上したと考えられる。 しかしながら、田園や丘陵地の景観については、盛岡固有の景観が少なく、相対的な評価が困難であるため、市街地の景観と同程度に設定した目標値までは及ばなかったものと考えられる。
<ul style="list-style-type: none"> 山地の景観が形成・維持されたことで、市民の評価が向上したと考えられる。 岩手山や姫神山等盛岡固有の景観があり、日常生活の中で目に触れることも多いため、市街地の景観と同程度に設定した目標値までは及ばなかったものの、田園・丘陵地の景観に比べて高い評価を得られたものと考えられる。

【小施策評価(令和6年度実績評価及び平成27年度～令和6年度総括)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	景観政策課
施策	15	良好な景観の形成	評価 責任者	三橋 一仁 内線 7290
小施策	15-2	良好な景観形成の誘導	評価 シート 作成者	畑澤 巧 内線 7295

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
・景観計画の目標を実現するために、景観計画の内容や景観法に基づく届出制度等について、引き続き、広く市民や事業者等に周知していくほか、景観に関する意識の高揚を図る必要がある。 ・景観への影響が大きい屋外広告物の適正化のために、許可制度などの周知・啓発を推進する必要がある。	・これまで取り組んできた景観施策の実績を踏まえ、次世代に継承できる「美しいまち盛岡」を実現するため、更なる景観施策の充実と向上を図り、良好な景観の形成を推進する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
街並み、山並み 市民・建築関係者	優れた景観が守られる。 景観に対する意識が高まる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和6年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単 位	目指す方向	成果点	問題点	要因分析
まちづくり評価アンケート調査「屋外広告物(屋外に表示・設置されているはり紙や看板など)は、景観に配慮されていると思う」と答えた市民の割合	%	↗	<p>当初値 (H25) 28</p> <p>R1目標値 31</p> <p>R6目標値 34</p>	<p>・まちづくり評価アンケート調査「屋外広告物(屋外に表示・設置されているはり紙や看板など)は、景観に配慮されていると思う」と答えた市民の割合が、当初から増加した。 ・市民等の屋外広告物制度に関する認知度が向上した。</p>	<p>・違反広告物の指導、屋外広告物制度の周知及び屋外広告物タウンミーティングなどの啓発イベントを通じた啓発により、制度の理解が広がった。 ・屋外広告物の適正化に係る行動計画を策定のうえ、重点事項を中心に指導し、無許可広告物の減少に努めたことで、屋外広告物の適正化が推進された。</p>
まちづくり評価アンケート調査「盛岡市の景観について、改善したい景観があると思う」と答えた市民の割合	%	↘	<p>当初値 (H25) 21</p> <p>R1目標値 17</p> <p>R6目標値 15</p>	<p>・景観に関する市民の意識が向上した。</p>	<p>・都市景観シンポジウムの開催や都市景観賞の表彰等を通じて、市民の都市景観に関する市民の意識が向上した。</p>
			<p>・申請等を伴わない違反広告物が依然として市内各所に存在している。</p>	<p>・制度についてまだ十分に認知されていない状況にあることから、指導や周知の方法を検討する必要がある。</p>	
			<p>・都市景観シンポジウムのアンケートからにおいて、「歴史的な街並みの保全について改善すれば景観がよりよくなる」との回答割合が最も多くなるなど、市民からは歴史的な街並みの保全や、景観の改善が求められている。</p>	<p>・歴史的建造物周辺や街路沿いに高い建築物が建ち始めており、景観に問題意識を持つ人が増えたと考えられる。</p>	

平成27年度～令和6年度の実績値の推移

要因分析
<p>・施策の推進により、適正な屋外広告物が維持された結果、横ばい傾向になったものと考えられる。 ・目標値に及ばなかったことについては、屋外広告物の制度についての市民への周知が十分に図れていないことが要因と考えられる。</p>
<p>・令和2年度までは都市景観シンポジウムの開催や都市景観賞の表彰等により、景観に関する啓発が図られ、横ばい傾向であった。 ・紺屋町番屋リニューアルオープン(R4. 4)や、monaka(R4.7)、盛岡バスセンター(R4.10)、の整備など、盛岡の景観が話題となる機会や報道が大幅に増加したことにより、良好な景観の形成について問題意識を有する市民が増加したことが変動の要因であると考えられる。 ・令和5年には、ニューヨーク・タイムズ紙「2023年に行くべき52ヶ所」に掲載されたことや、紺屋町菊の司酒蔵の解体とその跡地へのマンション建設をきっかけとして良好な景観の形成についての議論が生じたことにより、問題意識を有する市民が一層増加したのと考えられる。</p>

【小施策評価(令和6年度実績評価及び平成27年度～令和6年度総括)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	都市計画課	
施策	16	計画的な土地利用の推進	評価 責任者	松田 諭	内線 7210
小施策	16-1	土地利用に関する計画の策定・見直し	評価 シート 作成者	山崎 太	内線 7211

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
・持続可能な土地利用を推進するため、国土利用計画盛岡市計画を踏まえ、総合的で計画的な市土の利用を継続する必要がある。 ・都市計画(土地利用、道路、公園、下水道、市街地開発事業等)については、都市計画マスタープランに即して、諸施策を総合的かつ体系的に展開していく必要がある。 ・無秩序な市街地の拡大を防ぎ、計画的なまちづくりを進める必要があるため、区域区分及び地域地区の見直しに取り組んでいく必要がある。	藩政時代から形成された既成市街地の充実と新市街地の形成による機能的で活力あるコンパクトなまちづくりを推進するとともに、これら市街地を取り囲む農用地や森林を生産機能の場として、また、豊かな自然景観や水源涵養資源として、保全・活用するよう、総合的で計画的な土地利用を進める。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
都市計画区域、農用地区域、森林区域	計画的に土地利用される。 市街化区域についてはコンパクトなまちが形成される。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和6年度実績)

実績値の推移				単 位	目指す方向
指標① 都市として計画的に整備し、開発し、保全する必要がある区域を指定する割合(市域における都市計画区域の割合)				%	→
当初値 (H25)	50.3	R1目標値	50.3	R6目標値	50.3
指標② 農用地として保全し土地利用する割合(市域における農用地区域の割合)				%	→
当初値 (H25)	8.4	R1目標値	8.4	R6目標値	8.4
指標③ 森林として保全し土地利用する割合(市域における森林区域の割合)				%	→
当初値 (H25)	73.2	R1目標値	73.2	R6目標値	73.2

実績の評価	
成果点	成果の要因分析
<ul style="list-style-type: none"> 盛岡市都市計画マスタープランのほか、上位計画である盛岡広域都市計画区域マスタープランの目標に即した整備、開発、保全の方針が適正に図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> 関連する上位計画や制度等の適切な運用が図られている。 関係施策や計画における相互連携による調整が図られている。 市街化区域及び市街化調整区域の区域区分が定められ、適切に土地利用がなされている。
問題点	問題の要因分析
<ul style="list-style-type: none"> 将来における生活サービス、コミュニティ、社会資本の維持が困難になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少、少子化及び高齢化の進展、社会資本の老朽化等が進行している。
成果点	成果の要因分析
<ul style="list-style-type: none"> 盛岡市都市計画マスタープランのほか、上位計画である盛岡広域都市計画区域マスタープランの目標に即した整備、開発、保全の方針が適正に図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> 関連する上位計画や制度等の適切な運用が図られている。 関係施策や計画における相互連携による調整が図られている。 市街化区域及び市街化調整区域の区域区分が定められ、適切に土地利用がなされている。
問題点	問題の要因分析
<ul style="list-style-type: none"> 将来における農村部の生活サービス、コミュニティ、社会資本の維持が困難になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少、少子化及び高齢化の進展、社会資本の老朽化が進行し、農業の担い手不足等が顕在化している。
成果点	成果の要因分析
<ul style="list-style-type: none"> 盛岡市都市計画マスタープランのほか、上位計画である盛岡広域都市計画区域マスタープランの目標に即した整備、開発、保全の方針が適正に図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> 関連する上位計画や制度等の適切な運用が図られている。 関係施策や計画における相互連携による調整が図られている。 市街化区域及び市街化調整区域の区域区分が定められ、適切に土地利用がなされている。
問題点	問題の要因分析
<ul style="list-style-type: none"> 将来における森林資源の保全維持管理を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少、少子化及び高齢化の進展等が進行している。

平成27年度～令和6年度の実績値の推移

要因分析
<ul style="list-style-type: none"> 成果指標としては、現状維持を目標値としており、目標値を達成している。 関連する上位計画や制度等の適切な運用、関係施策や計画における相互連携による調整及び市街化区域と市街化調整区域の区域区分が定められ適切に土地利用がなされることにより、盛岡市都市計画マスタープランや上位計画である盛岡広域都市計画区域マスタープランに即した整備、開発、保全の方針が適正に図られていると分析される。
<ul style="list-style-type: none"> 成果指標としては、現状維持を目標値としており、目標値を達成している。 関連する上位計画や制度等の適切な運用、関係施策や計画における相互連携による調整及び市街化区域と市街化調整区域の区域区分が定められ適切に土地利用がなされることにより、盛岡市都市計画マスタープランや上位計画である盛岡広域都市計画区域マスタープランに即した整備、開発、保全の方針が適正に図られていると分析される。
<ul style="list-style-type: none"> 成果指標としては、現状維持を目標値としており、目標値をほぼ達成している。 関連する上位計画や制度等の適切な運用、関係施策や計画における相互連携による調整及び市街化区域と市街化調整区域の区域区分が定められ適切に土地利用がなされることにより、盛岡市都市計画マスタープランや上位計画である盛岡広域都市計画区域マスタープランに即した整備、開発、保全の方針が適正に図られていると分析される。

【小施策評価(令和6年度実績評価及び平成27年度～令和6年度総括)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	都市計画課	
施策	16	計画的な土地利用の推進	評価 責任者	松田 諭	内線 7210
小施策	16-2	土地利用の管理・指導	評価 シート 作成者	山崎 太	内線 7211

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
市街化区域内の未利用地の土地利用を進めるとともに、市街化調整区域における既存集落のコミュニティ維持や地域の活性化を図る必要がある。	良好な宅地水準を確保するとともに、都市計画に定める土地利用目的に沿った開発行為が行われ、立地の適正性が確保されるように、管理・指導する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
都市計画区域、農用地区域、森林区域	計画的に土地利用される。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和6年度実績)

実績値の推移				単 位	目指す方向
指標① 都市として計画的に整備し、開発し、保全する必要がある区域を指定する割合(市域における都市計画区域の割合)				%	→
当初値 (H25)	50.3	R1目標値	50.3	R6目標値	50.3
指標② 農用地として保全し土地利用する割合(市域における農用地区域の割合)				%	→
当初値 (H25)	8.4	R1目標値	8.4	R6目標値	8.4
指標③ 森林として保全し土地利用する割合(市域における森林区域の割合)				%	→
当初値 (H25)	73.2	R1目標値	73.2	R6目標値	73.2

実績の評価	
成果点	成果の要因分析
・市街化区域及び市街化調整区域内の適正な土地利用が図られた。	・開発及び建築行為における許可基準を周知し、申請前の窓口相談等において十分な指導を行っているため。
問題点	問題の要因分析
・審査基準の運用に関する相談への対応に時間を要している。	・社会情勢の変化及び生活様式の多様化に伴い、相談内容が複雑化している。 ・相談件数及び相談時間の予測が困難であること。
成果点	成果の要因分析
・市街化区域及び市街化調整区域内の適正な土地利用が図られた。	・開発及び建築行為における許可基準を周知し、申請前の窓口相談等において十分な指導を行っているため。
問題点	問題の要因分析
・審査基準の運用に関する相談への対応に時間を要している。	・社会情勢の変化及び生活様式の多様化に伴い、相談内容が複雑化している。 ・相談件数及び相談時間の予測が困難であること。
成果点	成果の要因分析
・市街化区域及び市街化調整区域内の適正な土地利用が図られた。	・開発及び建築行為における許可基準を周知し、申請前の窓口相談等において十分な指導を行っているため。
問題点	問題の要因分析
・審査基準の運用に関する相談への対応に時間を要している。	・社会情勢の変化及び生活様式の多様化に伴い、相談内容が複雑化している。 ・相談件数及び相談時間の予測が困難であること。

平成27年度～令和6年度の実績値の推移

要因分析
・成果指標としては、現状維持を目標値としており、目標値を達成している。 ・開発及び建築行為における許可基準を周知し、加えて、申請前の窓口相談等において十分な指導を行うなどの方策により、市街化区域及び市街化調整区域内の適正な土地利用が継続されていると分析される。
・成果指標としては、現状維持を目標値としており、目標値を達成している。 ・開発及び建築行為における許可基準を周知し、加えて、申請前の窓口相談等において十分な指導を行うなどの方策により、農用地の保全が継続されていると分析される。
・成果指標としては、現状維持を目標値としており、目標値をほぼ達成している。 ・開発及び建築行為における許可基準を周知し、加えて、申請前の窓口相談等において十分な指導を行うなどの方策により、森林の保全が継続されていると分析される。

実績値の推移				実績の評価		要因分析																								
指標④ 市街化区域における土地利用促進割合(未利用地に対する開発許可面積の割合)				単位	目指す方向																									
				%	↗																									
当初値 (H25)	2.0	R1目標値	3.1	R6目標値	3.8																									
<table border="1"> <caption>実績値の推移 (数値)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>当初値 (H25)</td><td>2.0</td></tr> <tr><td>H27</td><td>3.0</td></tr> <tr><td>H28</td><td>3.2</td></tr> <tr><td>H29</td><td>3.5</td></tr> <tr><td>H30</td><td>3.6</td></tr> <tr><td>R1</td><td>4.2</td></tr> <tr><td>R2</td><td>4.5</td></tr> <tr><td>R3</td><td>4.7</td></tr> <tr><td>R4</td><td>5.2</td></tr> <tr><td>R5</td><td>5.3</td></tr> <tr><td>R6</td><td>5.5</td></tr> </tbody> </table>							年度	値	当初値 (H25)	2.0	H27	3.0	H28	3.2	H29	3.5	H30	3.6	R1	4.2	R2	4.5	R3	4.7	R4	5.2	R5	5.3	R6	5.5
年度	値																													
当初値 (H25)	2.0																													
H27	3.0																													
H28	3.2																													
H29	3.5																													
H30	3.6																													
R1	4.2																													
R2	4.5																													
R3	4.7																													
R4	5.2																													
R5	5.3																													
R6	5.5																													
成果点			成果の要因分析																											
<ul style="list-style-type: none"> 市街化区域及び市街化調整区域内の適正な土地利用が図られた。 			<ul style="list-style-type: none"> 開発及び建築行為における許可基準を周知し、申請前の窓口相談等において十分な指導を行っているため。 																											
問題点			問題の要因分析																											
<ul style="list-style-type: none"> 審査基準の運用に関する相談への対応に時間を要している。 			<ul style="list-style-type: none"> 社会情勢の変化及び生活様式の多様化に伴い、相談内容が複雑化している。 相談件数及び相談時間の予測が困難であること。 																											
要因分析: <ul style="list-style-type: none"> 成果指標としては、未利用地に対する開発許可面積の割合を増やしていくことを目標としており、目標値を達成している。 開発及び建築行為における許可基準を周知し、加えて、申請前の窓口相談等において十分な指導を行うなどの方策により、市街化区域における土地利用が促進されていると分析される。 																														